

# 第10次札幌市環境審議会 第3回会議

## 会 議 録

日 時：平成28年9月13日（火）午前9時30分開会  
場 所：かでの2・7 10階 1030会議室

## 1. 開 会

○松田会長 おはようございます。

定刻となりましたので、ただいまより、第10次札幌市環境審議会第3回会議を開催いたします。

まずは、事務局より、委員の出席状況の報告と配付資料の確認をお願いいたします。

○事務局（金網環境計画課長） 環境計画課長の金網です。

本日は、朝早くからお集まりいただきまして、大変ありがとうございます。

事務局から、委員の出席状況についてご報告いたします。

まず、本日は、公募委員の大崎委員、北海道学園大学の余湖委員から欠席のご連絡をいただいております。岸委員、栗田委員、宮本委員の3人がまだいらっしゃっていませんが、岸委員からは遅参する旨のご連絡をいただいておりますので、もう間もなくいらっしゃるかと思えます。

本日の出席委員につきましては18名でありまして、総委員数20名の過半数に達しておりますので、札幌市環境審議会規則第4条第3項により、この会議が成立していることをご報告いたします。

続きまして、配付資料の確認をさせていただきます。お手元の資料をご覧ください。

上から、次第の次に委員名簿があり、裏面に座席表を載せております。続きまして、資料1は、A3判横の第2次札幌市環境基本計画の策定に向けた経過、資料2は、A4判のホチキスどめにしてあるこれまでの議論でいただいたご意見をまとめております。資料3は、3-1、3-2があり、それぞれA3判で合計2枚をお配りしております。次に、資料4は、環境首都SAPPORO（仮）の将来像（目指す姿）について、ホチキスどめの資料です。次に、資料5は、第2次札幌市環境基本計画における施策の柱について、A4判1枚物となっております。最後に、資料6は、市民意見の反映方法について、A3判2枚をホチキスどめにしてあります。参考資料として、市民ワークショップに係るアンケート調査報告をホチキスどめにしてあります。

以上ですが、足りない資料はございませんか。もし何かなければ、おっしゃっていただければと思います。

事務局からは以上です。

## 2. 議 事

○松田会長 それでは、次第に則って議事を進めてまいります。

まず、議事（1）の第2次札幌市環境基本計画の策定に向けた経過についてです。

これは、これまで、本審議会では、二つの部会を設置して、それぞれ2回の会議で分野ごとにさまざまな議論を進めてまいりました。ここでは、この会議でやったことを振り返り、平成29年度中の策定に向けた今後の計画スケジュールについて確認したいと思います。

皆さんは既にご発表になったものを取りまとめたものですので、大体は頭に入っていると思いますが、事務局からご報告をお願いいたします。

○事務局（佐竹調査担当係長） 環境計画課の佐竹です。よろしくお願いいたします。

それでは、議事（１）第２次札幌市環境基本計画の策定に向けた経過について、事務局から説明させていただきます。

資料１と資料２でご説明させていただきます。

ここでは、これまで皆様方にご意見をいただいた内容の振り返りと今後のスケジュールについてです。

まず、資料１をご覧ください。

第２次札幌市環境基本計画の策定に向けた経過について、これまでの議論の経過ですが、今年２月の第１回会議で環境基本計画の策定に向けて札幌市から諮問させていただき、その後、二つの部会を設置し、各分野における議論をいただきました。

第３回会議におきましては、これまでいただいたご意見を踏まえて取りまとめた第２次札幌市環境基本計画の骨子のたたき台である資料３と札幌市の目指す姿について資料４でご議論いただき、その目指す姿に向けた施策の柱を資料５に記載しておりますが、どのような対策をとっていくか、ご議論いただければと思います。

今回の第３回会議におきましては、まず、施策の柱を立てるところまでご議論いただき、温暖化や生物多様性などの個別の施策についてどういった対策をとっていくのかということは、今後、部会ないしは第４回以降の審議会でご議論いただければと思います。

そのスケジュールを下に書いておりますが、今回の第３回で、これまでご議論いただいた部会の取りまとめができればと思っております。

９月の項目としては、市民意見の反映として、９月１０日に市民ワークショップを行いました。今回は、この情報を資料として取りまとめております。こちらについても、情報共有ということで、市民の皆様からいただいたご意見も反映させながら取りまとめを行っていければと思っております。

今回、部会の取りまとめを行った後、１０月に、再度、部会において再検討、まとめを行って、施策の柱に従って、さらに温暖化などの個別の対策に対して施策の方向性をどのように持っていけばいいのかをご議論いただきたいと思いますと思っております。

それから、１１月の第４回で骨子案の検討を行い、必要に応じて１２月に再度部会を開催します。その後、１月ごろに起草委員会を設置させていただき、２月の第５回において一旦の取りまとめをして、中間答申をいただければと思っております。２月には、再度、市民ワークショップを行い、骨子案ができたところで市民のご意見をいただければと思っております。今年度中に計画の素案をつくり、２０１７年度中に計画を策定できればと考えております。

３の今後の進め方につきましては、ご説明が繰り返しになりますが、今回の会議で、第２次計画で目指す姿と骨子のたまかな形についてご意見をいただき、各部会にて施策の柱

ごとの対策の方向性や内容についてご議論いただき、骨子案を取りまとめていきたいと思っております。

スケジュールについては以上になります。

続きまして、資料2のご説明をさせていただきます。

資料2につきましては、これまでのご議論でいただいたご意見を取りまとめたものになります。

まず、1ページは、第1回環境審議会、第2回環境審議会でもいただいた主なご意見をまとめさせていただきます。

資料の中で赤い丸、青い四角でマークをつけているところがありますが、赤い丸につきましては、将来の目指す姿や、施策の柱立てをする中で、今回の資料で対応させていただきたいところになります。

青い四角につきましては、対応済み、もしくは随時対応ということで、例えば、1ページ目の左側ですが、計画年度について、長期的な議論を行い、計画年次や目標設定には、ほかの目標を勘案して、決めやすいところで決めていくのがよいのではないかと、中長期的な視点を持つことが重要というご意見をいただいておりますので、こちらについては、2050年を将来の姿として、まず、目指すところをイメージさせていただき、2030年度を計画年度とし、今回の計画を策定していくということで進めさせていただいております。

このように随時対応していくものもございしますが、環境問題対応部会、環境保全対策を通じたまちづくり検討部会でいただいたご意見で、各分野のご意見につきましては、今後、温暖化や廃棄物などの個別の議論をしていく中で反映させていただければと思っております。こちらの内容を全て説明すると長くなってしまいますので、今回、資料としてお配りさせていただいた中で、こういったご意見もあったのではないかとこのものがあれば、ぜひご指摘いただければと思っております。

事務局からは以上となります。

○松田会長 どうもありがとうございました。

スケジュールと本会議と2回ずつ行った部会の内容についてご説明がありましたが、各部会で出た意見について、各分野における施策などの詳細について、10月18日の次の部会でさらに議論していきたいと思っております。現時点で追加しておく観点やその他の質問があればお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○松田会長 資料2を見ると、今までの意見が大体網羅されていると思っております。次回までに読んでいただき、10月18日に意見をいただければと思っております。

それでは、これは終わります、次に、議事(2)第2次札幌市環境基本計画骨子(たたき台)についてです。

ここでは、これまでの検討結果を踏まえて事務局が作成した骨子案について検討を進め

てまいりたいと思います。

それでは、資料3-1と3-2のご説明をお願いいたします。

○事務局（佐竹調査担当係長） それでは、第2次環境基本計画の骨子のたたき台について、資料3-1、3-2でご説明させていただきます。

これまで、部会では、各個別分野でのご意見をいただき、ご議論いただいたところです。こちらを取りまとめていく中で、今後つくっていく第2次札幌市環境基本計画の全体の構成はこのような形でいかがだろうかということと、その内容について、このような記載ではどうだろうかということをご案として出しております。

まず、資料3-1ですが、第2次札幌市環境基本計画の全体構成として、まずは目的と位置づけ、計画期間については、2050年ごろの札幌市の将来の姿を見据えて、2030年までの施策の方向性を示すということです。来年度中に策定する予定ですので、その後、2018年度から2030年度を計画期間とさせていただければと思っております。

その後、1-1として社会的動向、背景になります。こちらは、国際的な動き、国内の動きについて記載を行い、1-2で、札幌市の現状とこれまでの取組ということで、社会情勢の変化や札幌市の都市構造、気象と気候変動、廃棄物、生物多様性への取組、環境への市民意識、こちらはアンケートをとっておりますので、それをベースに記載させていただいております。そのほか、健康で安心な生活環境の確保についてのこれまでの取組、もしくは、札幌市のこれまでの環境対策の変遷を記載できればと考えております。

その後、実際の計画内容、将来の姿に入っていきますが、ここにつきましては、これまで検討いただいた環境問題対応部会とまちづくり部会からの意見、例えば、都市交通に関するものや人、市民に関するもの、この辺は例示でございますけれども、資料2でまとめたいご意見も踏まえて、2ポツのところで、札幌市の環境の特徴と課題、環境特性や課題、求められる事項などを記載させていただいております。それから、3ポツのところで、基本理念と将来像、目指す姿を記載しております。こちらは、後ほど資料4でご議論いただければと思っております。基本理念として、市民生活や事業活動、市内外とのかかわり等、全ての活動において、持続可能性を持ったまちの形成、持続可能性を基本理念として、目指す姿として、世界に貢献していく持続可能な都市、環境首都SAPPORO（仮）とさせていただきますが、資料4で詳しくご説明させていただければと思います。

こちらが将来の目指す姿ですが、この審議会において、共通認識として将来像をイメージさせていただいた後、4ポツで、将来の札幌の姿を実現するための四つの柱立てをさせていただき、その中では、低炭素社会の実現、循環型社会の実現、環境共生社会の実現、環境施策の横断的、総合的な取組の推進、こういった対策を通じた札幌市民のライフスタイルの構築を四つの柱として案を作成させていただきました。こちらについては、資料5でご議論いただければと思っております。

この四つの柱立てを行った後、それぞれの柱ごとの施策の方向性を5ポツに書かせていただいております。例えば、低炭素社会の事務局や循環型社会の実現、その中にはエネルギー

ギーやモビリティ、廃棄物、熱利用というものを記載していきます。そして、6ポツでは、環境首都SAPPORO(仮)の実現に向けた先導プロジェクトや実現に向けた推進体制とロードマップを記載できればと考えております。5ポツ以降につきましては、次回の部会でご議論いただければと思います。

先ほど、会長から今回は10月18日というお話をさせていただきましたが、まだ皆様方にご案内できておりません。申しわけございませんが、10月18日に午前と午後で2つの部会を1日で開催してしまおうと考えておりますので、後ほどご案内できればと考えております。

全体構成としては資料3-1に記載しており、5ポツ以降については次回以降の部会もしくは審議会の本体でご議論いただければと考えております。今回は、将来像、四つの柱立てというところまでご議論いただければと考えております。

資料3-2は、骨子のたたき台になっております。先ほどの構成を踏まえて目次立てをしていくと、このような形だろうということで案を作成させていただきました。

特に、前半部分ですが、1ポツの環境を取り巻く社会的動向の変化と札幌市の課題というところです。

社会動向、背景としては、国際的な動きとして、地球温暖化、エネルギー、昨年開催されたCOP21もしくはパリ協定や、台風や暴風雨などの異常気象の可能性、都市の安全性、また、水素社会への転換、新たな技術として、IoTやスマートグリッドなどの技術革新の話、生物多様性の損失、PM2.5などの新たな環境問題、世界的な動きとしては、国連のSDGsのようなお話もあるかと思っております。

また、国内の動きとして、東日本大震災の発生や人口減少、少子高齢化、社会動向の札幌市における動向と課題としては、これまでご議論をいただいていた人口減少や少子高齢化、コミュニティの希薄化、景気動向の変化などもあると思っております。また、札幌市の都市構造として、定山溪に広大な森林を持っていることや人口195万人の大都市、市街化区域の緑被率のなどについてもご議論いただいたかと思っております。また、気象と気候変動の話として、札幌市においても気温の変化や気象の変化が起きているところでございますし、温室効果ガスの排出量の推移が1990年ごろから増えてしまっている状況を何とか削減していかなければいけないということです。また、廃棄物の問題や生物多様性、環境への市民意識の変化や健康で安全な生活環境の確保を記載できればと考えております。

先ほどの構成に従い、2ポツ、3ポツで、環境の特徴と課題、もしくは、基本理念と将来像については資料4でご議論いただければと思います。

また、4ポツとして、それを実現するための四つの柱ですが、これは資料5で記載できればと思います。

それから、5ポツに分野別の施策の方向性を記載しております。

こちらは、例示させていただきましたが、今回、資料5で分野別の施策の方向性を柱立てさせていただきまして、それに従って、例えば、低炭素社会の実現を記載するのであれ

ば、それに対する目標としましては、2030年度に市内から排出される温室効果ガスを1990年比で25%削減というものが札幌市温暖化対策推進計画で目標立てさせていただいておりますので、それに向けて徹底した省エネルギーの推進として、高断熱・高气密住宅、建築物の導入推進や新築住宅、建築物におけるZEHやZEBの標準化、コージェネレーション等の分散電源の導入促進など、こういった対策、方向性について、今後の部会などでご議論いただければと思っております。

その後の6ポツ、7ポツについては、計画骨子の作成後に検討ということで、環境首都SAPPORO（仮）の実現に向けた先導プロジェクト、重点プロジェクトや、実現に向けた推進体制とロードマップについて、今後、案を作成させていただき、ご議論をいただければと思っております。

全体構成に関してご意見をいただければと思います。

事務局からの説明は以上となります。

○松田会長 どうもありがとうございました。

10月18日というのは、私が先走りまして、まだ決定ではないそうですので、決定に向けて議論させていただきたいと思えます。

ただいまの説明で、次期計画の全体構成及び骨子案を示していただきました。

資料3-2の右側にあります赤字に囲まれた環境首都SAPPORO（仮）の将来像あるいは施策の柱については、次回以降の議題として議論することとして、まずは、3-1の全体構成、3-2の左側の現状を取り巻く社会動向や札幌市の課題などで不足の点がもしあれば、皆さんのご意見をいただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

3-1の全体と3-2の左側の第2次環境計画骨子というところがございます。

○中野委員 コンテンツというか、中身が抜けているので、あまりイメージがはっきりしないところがありますが、こういう流れでまとまっていくということはよく理解できる所です。

ただ、3-1の3の基本理念と将来像（目指す姿）の表記についてですが、上の基本理念と下の目指す姿は、言っていることがつながってきません。基本理念で述べているのは、どちらかというと市民生活で、目指す姿は、世界に貢献していく持続可能な都市という形になっていると思います。

したがって、基本理念に追加しなければいけないだろうと思えます。まちの形成と世界に貢献する環境イノベーション技術の実現といった表記がないとうまくリンクできません。そうでないと、下の実現する4つの柱につながってこないような気がします。

○松田会長 どうもありがとうございました。

そのほかにごございますか。

○村尾委員 村尾でございます。

今と同じ基本理念のところ、持続可能性がキーワードだとおっしゃいました。それで、持続可能、サステナブルというのは、昔、何とか委員会がつくったときに述べた意味と

最近使われるときの意味が随分変わってきています。ここで持続可能な都市あるいは持続可能な発展という言い方をしたときに、都市や発展が持続可能であると普通は読みます。ただ、何とか委員会が最初にサステナビリティと言ったときには、私たち自身の活動を支えている環境あるいは資源を保全あるいは維持するような私たちのあり方のことをサステイナブルと呼んで、一部の経済学の先生は維持可能など訳している言葉です。ですので、持続可能という言葉を使うときには、少し気を遣ってやっていただきたいという感想を持ちました。

○松田会長 どうもありがとうございました。

ただいまの村尾委員の意見はいかがですか。確かにそうだと思いますが、事務局はいかがでしょう。

○事務局（佐竹調査担当係長） まさに、ご意見いただいたとおりで、かつてのサステイナブルと今のサステイナブルの意味ですが、英語としては変わらないので、世界的な認識としては変わらないのかもしれないのですが、日本での何となくの認識は変わっているような気がしております。発展する中で社会を維持していくという意味がかつてはあったと思いますが、現在におけるサステイナブルについては、先ほど村尾委員がおっしゃったように、資源が循環して維持されていくという意味がかなり入ってきているような気がしております。

目指す姿については資料4で詳しく説明させていただいておりますので、そこでもご議論いただければと思いますが、サステイナブルという意味をきちんと市民の方に伝えていくのは非常に重要だと思います。計画をつくっていく中でも、記載については気をつけていきたいと思っております。

○松田会長 どうもありがとうございました。

そのほかにいかがでしょうか。

○東郷委員 北海道の東郷です。

気候変動に係る適応の関係です。

部会の中ではご議論があったようですが、基本計画の中で位置づけをされていくのか、地球温暖化対策の計画に位置づけをしていくのか、あるいは別立てで策定されるのか、その辺のお考えが今時点でわかればお聞かせいただきたいと思っております。

○事務局（金網環境計画課長） 気候変動に対する適応策についてです。

この基本計画の中では、一旦、適応策についても考えていくという方向性ですが、実際の具体策については別のところで検討してまいりたいと考えております。

私からは以上です。

○松田会長 そのほかにございますか。

○半澤（實）委員 毎年、9月に環境施策についての実績のレポートが発行されていると思います。それで、もし10月に会議を予定されているのであれば、平成27年度の実績をいただければありがたいと思います。多分、去年も9月に発行していると思います。ス



リムシティさっぽろのごみ処理実績が載っているレポートがありますので、それが作成でき次第いただきたいと思います。

それから、全体の説明を聞きますと、札幌市が「世界が憧れる都市を目指す」との文言でしたけれども、今度は世界的に貢献していくという一歩踏み出した考え方が打ち出されていると思います。札幌が発信して世界あるいはほかの都市と連携・貢献していくという方向性は非常にいいのではないかという感想を持っています。

○事務局（佐竹調査担当係長） まず、実績についてですが、これまで、現行の環境基本計画の進行管理として、毎年、札幌市環境白書を発行させていただいておりました。こちらにつきましては、毎年、大体12月ごろの発行となっております。といたしますのも、環境白書については、さまざまな環境のデータを取りまとめて掲載しているということもございまして、全ての統計データなどが集まるのは12月ごろということで、その時期の発行になっております。個別の対策についてご検討いただく中で、最新のデータを反映したものを10月の時点でお出ししたいと思いますので、その辺はご理解をいただければと思っております。

○半澤（實）委員 毎年、出しているスリムシティさっぽろの冊子のデータが一番新しいと思います。環境白書ではなくて、スリムシティさっぽろの冊子が9月にでき上がっていると思いますので、それが10月の会議に間に合えばいただきたいということです。一番新しいデータだと思えます。

○事務局（佐竹調査担当係長） 個別の対策をご検討いただく中で、間に合えばということになると思いますが、お出しいたします。

○松田会長 そのほかにございますか。

○石井委員 幾つかあるので、少しずつ行きたいと思えます。

まず、前回の計画になかったもので重要なのは、部会をやって思いましたが、今回、生物多様性というキーワードが入ってきました。札幌市の現状とこれまでの取組の中に、札幌市の都市構造ということで、豊かな緑や天然林というキーワードがあります。その後、環境対策の変遷として、これまではこうだったということを書かれると思います。そうではなくて、札幌市はどういう自然環境の上で成り立っていて、過去にこういう課題があつて、我々はこう取り組んできたのだということをついにまとめた環境面から見た歴史みたいなものがどこかにまとまってあつたほうが、初めから個別に書かれるよりは、これぞ環境基本計画という感じがします。

これまでだと、都市構造になってきて、都市型の問題をこうやって解決してきましたという書き方ですが、自然に生かされているという感覚で書くならば、書き方はもうちょっと違う気がします。その辺はいかがでしょうか。

○事務局（金網環境計画課長） ご意見をありがとうございます。

札幌のまちの成り立ちあるいは我々の生活がどのように成り立っているのか、歴史的なことや普段使用している資源などがどこから来てどこに行っているのか、札幌というまち

の成り立ちと我々の生活の成り立ちをストーリーとして描けると、読む方にも訴えられるのではないかというアドバイスかと思います。検討してまいりたいと思います。

○石井委員 書きづらければ、コラム的なものでも結構です。計画となると、そういうものがぼんと入ってきづらいところがあると思いますが、ご検討いただければと思います。

それから、気温の変化や気象という話がありますが、台風の問題やゲリラ豪雨の問題など、大地震ほどはひどくなくても頻度が多く起こりそうなもの、あるいは、本当に大規模なものが起きてしまうかもしれません。

今、環境省も言っていますが、低炭素、循環型、自然共生の社会の下には安全・安心があるのだということになっていますので、その構造になっているといい気がします。強化や安全・安心という言葉がベースとしてどこかにあると思います。例えば、ライフラインが孤立してしまってもすぐに復旧できるとか、防災、減災の視点など、必ずしも環境だけではないところはあると思いますが、そういった視点が見当たらないと思いました。

次に、どこに来るのか、探していてよくわからなかったのですが、例えば、具体的な目標値や指標が一体どこにあらわれてくるのかということがわかりませんでした。

それから、最後の推進体制とロードマップのところは全く議論されていないかもしれませんが、環境基本計画をつくっていろいろな施策をすると、施策の評価が必要です。数値目標に対して施策の評価をしていく体制をどう整えていくのか、環境審議会の役割なのかどうなのかというところだと思います。理念や柱や方向性はわかりましたが、個別計画に書いてある目標をそのまま踏襲するのか、その一部なのか、あるいは全く違うものなのかは議論が必要だと思いますが、そういったものがここに書かれるのか書かれないのかを教えてくださいたいと思います。

○事務局（佐竹調査担当係長） 安全・安心がベースというところについては、資料4で将来の姿についてご議論いただければと思いますが、そちらで解説させていただきます。

それから、目標、指標、推進体制、進捗管理ですが、おっしゃるとおり、現在、資料3-2でいくと、6ポツ、7ポツのところでは計画骨子作成後に検討と書かせていただいております。まだ検討を進めているところですが、目標につきましては、例えば、5ポツの分野別の施策の方向性で例として挙げました低炭素社会の実現というところにつきましては、目標を2030年度に市内から排出される温室効果ガスを90年比で25%削減という大きな目標があります。そして、それを見ていく中で、どこまで指標を書いていくかというのがこれから議論いただきたいことですし、検討していかなければいけないと思っております。

ただ、環境基本計画は大きな計画になりますので、詳細な指標を立てていくと、下にぶら下がる個別計画に影響を及ぼすこともあるので、その辺のバランスは難しい思いながら、これから考えていきたいと思っております。できれば、大きな目標と、それを進捗管理していきたいと思っております。

管理については、これまでと同様、環境白書みたいなもので取りまとめていきつつ、審

議会の中でご議論いただいて管理していくことを想定しております。

○石塚委員 質問ですが、環境影響評価的などころはどの辺に位置づけられるのですか。

それから、札幌市が環境首都ということであれば、開発などを進めていく上で、理念的に環境アセスメントを位置づけられればと思います。

というのは、あるところで、緑を増やすということで、公園をつくるためにそこにあった自然を壊すなど、実は、そこにもともとあった自然豊かなところを整備する、それが果たしているのかということもあります。基本計画を進めていく上でいいと思ってやっていくことが果たしているのかというチェックなどの理念がどこかに位置づけられていくようなものがあればいいと思いました。

○松田会長 実は、私の団地で公園をつくったときに、自然林を全部壊して人工林の公園にしてしまいました。私は大反対したのですが、かえっておかしくなってしまったのではないかと思います。今の石塚委員の話は非常によくわかります。

○事務局(金網環境計画課長) この計画の中での環境影響評価の位置づけについてです。

私の個人的な考えかもしれませんが、環境を守っていくための具体的な取組手法の一つと捉えております。

資料3-1の資料の中では、環境共生社会の実現、または横断的、総合的な取組の推進という大きな方向性を示していますが、そこにぶら下がってくる具体的な施策として、具体的な開発プロジェクトが出てきたときに、環境アセスメントでチェックするということになると考えております。

○石塚委員 開発などを進めるときに、きちんとチェックできるようなところを示すようにつくっていただければと思います。

○松田会長 その辺も考慮していただきたいと思います。

そのほかにございますか。

○岸委員 3-1、3-2を拝見して、総合的に考えられていることがよくわかって、よかったと思っております。

そこで、たった今のご意見にも関係しますが、環境のアセスメント、健康へのアセスメントというのがいろいろな開発のときには非常に重要です。私が自分で申すのも何ですが、日本では、アセスメントをきちんとするということがなかなかできていません。それは、環境と健康の分野では、世界的には事前アセスや総合的な判断をもってしていますが、日本はそれが足りないと思っております。今のご意見は、そういう意味で抜けていることを心配されたのだと思います。

それから、3-1の一番左側に、健康で安心な生活環境の確保にこれまで取り組まれてきたと書いてありますが、私も多少関係しますので、これが入っていてよかったと思います。そうしますと、基本理念と将来像のところ、持続可能性を持ったまちの形成と目指す姿ですが、世界に貢献していく持続あるいは維持可能な都市の最終的なアウトカムは、人々、市民の健康、安全の確保が同時に両立しているということですが、そのイメージ

が文字の上でも抜けているのではないかと思います。

4つの柱のところ、例えば、低炭素社会実現、循環型社会、環境共生社会の実現とあります。環境共生社会というのは具体的に何を意味しているのかわかりづらいですが、5番を見ると多少わかります。

それで、環境施策の横断的、総合的な取組の推進で、対策を通じた市民のライフスタイルの構築と書いてありますが、ライフスタイルの構築が最終目標ではなくて、市民の健康で安全な生活環境の確保こそが最終アウトカムだと思います。市民にも努力していただかなければいけないという意味でライフスタイルの構築があっても結構ですが、ライフスタイルを構築することが最終目標ではなくて、3-2以降にもありますように、国連やWHOが目指しているのは、一人も置いてけぼりにしないということで、社会的弱者も含めてクライメート・チェンジが非常に強くなる、それを防ごうとしているわけです。その中で、人々の健康、安全を確保するということです。

ハード面はよく書かれていますが、最終的には、人々のアウトカムがどうなるのか、しかも、国連もWHOも誰一人置いてけぼりにしないと言い始めています。そのために、一生懸命、都市計画や健康を包む外側の全体の枠組みもそれを目指していこうとしていますので、人々の健康、安全がどうなのかということを考えていただきたいと思います。そうすると、最終的には環境首都と胸を張って言えるのではないかと思います。そこに向かって努力していただきたいと思います。夢も出てきますし、高齢者も小さい人も弱者も置いてけぼりにしないということを追加していただくと、産業革命以降、2度の上昇を抑えるのはぎりぎりの線ではないかと心配しております。今年などは、北海道でもそれによる被害が出てきていると思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

ただ、全体的には随分わかりやすいと思います。

○松田会長 それは、十分に考慮して入れていただきたいと思います。

そのほかにございますか。

○大沼委員 後で言おうと思っていましたが、今、岸委員からも石井委員からも出てきたので、先走って言わせていただきます。

資料3-1の4のボックスだけを見ると、ライフスタイルの構築というのが何だかよくわかりません。資料5の一番下にボックスで囲って出てきます。そこでは、そこに住むことに誇りを覚え、魅力を発信していくとあります。それはそのとおりですが、精神論過ぎるところがあります。精神論だけではなくて、先ほど石井委員がおっしゃったような安全・安心もここに含まれてくるし、岸委員がおっしゃったような健康が第一で、健康でなければ、そもそも誇りを覚えることまでできません。

繰り返しになりますが、こぼれ落ちる人をつくらないということです。先ほど村尾委員がおっしゃった持続可能の意味や使い方は、実は世界の流れの中でも変わってきています。単に物事や資源を持続させるとか、経済成長とバランスをとるということももちろんあるけれども、概念が広がってきています。その説明をきっちりしながら、今言ったライフ

スタイルについて、精神論ではないところもきっちり書いていくことでもう少し全体が固まってくるという印象を持ちました。

個人的な感想ですので、回答は不要です。

○松田会長 これも十分に考慮していただきたいと思います。

そのほかにございますか。

○永田委員 札幌大谷大学の永田でございます。

今のお話は、議事（３）（４）に出てくると思いますので、そちらにいったときに申し上げようと思っていましたが、次のことを含めてお話しさせていただきます。

今出ていましたライフスタイルの構築ですが、私もここに違和感を持ちました。

ライフスタイルというのは、非常に主体的なものではないかと思います。自然発生的に生活者がこのようなライフスタイルをつくった結果がそう呼ばれると思いますので、外部からライフスタイルを構築するということはそぐわないような気がします。それから、そういったライフスタイルの構築が望ましいのであれば、そうなるような働きかけをどうしていくのかということがもう少し出てきていいのではないかと思います。

それで、具体的に生活者という形に入っていきますが、食と住に関しましてはいろいろな素材が出てきたと思います。

しかし、衣につきましては、いただいた資料の中ではドイツなどが例として出てきて、悪い天気や悪い温度が存在するわけではなく、悪い服装が存在するという言葉がありました。確かに、そういう面はないがしろにされています。服装ではなくても、気候風土に根差した素材の利用と、市民自体がそういうものを必要として、なおかつ心地よいと感じてそういうものを使っていったほうがいいと思います。

具体的に言うと、化学繊維は、本来的には環境汚染物質ではないかと思っていますので、北海道産の自然素材を利用していきべきだと思います。それから、食や住にかかわると思いますが、フィンランドやスウェーデンは、日常生活の中に豊かな色彩と一緒に生かしていき、生活する人々は、自分たちが楽しんでそういう生活環境をつくり上げていて、それがそのまちの魅力になっています。ですので、もう少し主体的に自分たちのライフスタイルをつくっていくような外からの働きかけを含んでいただければという気持ちです。

○松田会長 どうもありがとうございました。

今までの話はすでに議事（３）に入っておりますので、議事（３）の環境首都SAPPORO（仮）の将来像について、先にご説明をお願いいたします。

○事務局（佐竹調査担当係長） 資料の構成が悪くて、先に議論を進めていただいたところがございます。

この後の議事ですが、まずは、議事（３）で環境首都SAPPORO（仮）の将来像、目指す姿について、2050年ごろの札幌市はどうなっているのか、環境基本計画に記載していきたいと思っておりますので、そこについてのご議論をいただいて、それについてどのような施策を柱立てて進めていくのか、ご議論いただければと思います。

資料4でご説明させていただきます。

1 ページ目につきましては、先ほどご説明した資料2の札幌市環境審議会(部会を含む)からの意見について、ここに係るものを抜粋させていただいたものになりますので、ご参考までにご覧いただければと思います。

2 ページ目で具体的にご説明させていただきます。

2 ページ目のイメージですが、こちらは、第2次環境基本計画に書いていく中で、札幌市の環境の特徴と課題にはこのようなものがあるのではないかとということで項目出しをさせていただいたものと、目指す姿について記載させていただいております。

まず、札幌市の環境の特徴と課題としては、環境特性として、積雪寒冷地であること、また、緑に囲まれた都市構造であること、きれいな水や空気、先ほど歴史の話がございましたが、自然環境に囲まれつつ、さまざまな環境課題を克服しながら現在の札幌市があるということで、外からの評価としても、きれい水や空気であるということです、そういったことが記載できればと思っております。

それに対して、課題、求められる事項としては、温暖化対策や低炭素社会、もしくは水素社会も今後は考えられると思っておりますので、そういったものの実現、生物多様性の確保、自然環境の保全、循環型社会の実現、コンパクトなまちづくりや水と緑のネットワークの構築、人材育成や環境教育、環境活動の推進、そして、環境首都・札幌を宣言しておりますので、その課題として、こちらもいただいたご意見ですが、環境首都としてのイメージを強化していく、より発信していくということです。そして、ショーケース的な先進的エリアの創出、札幌市の持つ魅力をきちんと発信していくということもあるかと思っております。

また、社会情勢の変化への対応として、人口減少や少子高齢化もしくは景気動向の変化などもあるかと思っております。そういった中で、環境産業の創出や育成、環境関連企業との連携や技術開発、積雪寒冷地型の環境産業の育成というものも考えられると思っておりますし、周辺地域、北海道内の他地域、他市町村との連携、気候変動による災害にも対応できる都市の実現、先ほどの安全・安心ということがベースにあることも考えていければと思っております。

また、持続可能というところですが、こちらの記載には気をつけて、持続可能性というものも課題として挙げさせていただければと思っております。

それを踏まえて、環境首都SAPPORO(仮)の将来像、目指す姿について、案を作成させていただきました。

理念といたしまして、市民生活、事業活動、市内外とのかかわりなど全ての活動において、持続可能性を持ったまちの形成としております。

それから、目指す姿として、世界に貢献していく持続可能な都市、環境首都SAPPORO(仮)としております。このイメージといたしましては、その下でございます徹底した省エネ、大幅な再エネの導入による低炭素化、こちらは、温暖化対策推進計画の目標として、温室効果ガスを90年比で80%削減を掲げておりますので、こちらを達成し、生

産から消費に至る市民の生活や事業等における全ての活動で資源の循環が行われる、また、自然環境、生物多様性の確保が行われている、このまちで築き、育まれた環境技術や市民のライフスタイルについては、市域を飛び越え、国内外に波及し、世界各地のまちづくりに貢献している、札幌市民については、このまちに住むことに誇りを覚え、さらに魅力あふれる札幌を目指し、一人ひとりが持続可能なまちづくりに参加しているというイメージを書かせていただきました。

こちらについてもご意見をいただければと思います。

その下に、私たちが望む将来の姿のイメージを書いておりますが、それぞれ個別の分野で切り取って記載をしております。

まず、環境をつくっていくには、市民によるところがかなり大きいということで、最初に市民、人に焦点を当てております。

こちらは、環境都市であることにシビックプライドを持つ市民の実現ということで、環境首都であることが誇りになっている市民、また、持続可能性に対する理解と行動が結びついた市民、札幌の自然、森、川や雪、四季、都市に対して魅力を感じ、その魅力を発信していく市民、特に、部会のご議論の中で、雪に関するご意見で、雪が降るのはとめられませんので、降ることについて理解していただいて、それに対して共存していく意識を身につけられるとよいと考え、こういう記載にさせていただいております。

また、コミュニティの分野につきましては、地域のつながりが活発で、積極的に環境活動を実践している地域の実現として、資源循環や自然との共生などの観点を持った地域活動を実践している、また、若者から高齢者まで多様な世代が参画し、持続可能な地域活動を実践する地域としております。

産業につきましては、地域特性を生かした新たな産業の創出と世界市場の形成の実現としまして、積雪寒冷な地域特性を生かした熱や電気エネルギーの省エネ化、また、新たな技術やビジネスの世界市場化、北海道の豊富な資源を活用した持続可能な循環型ビジネスの創出などを記載しております。

そして、ネットワークとしては、国内外に貢献していくまちの実現としております。これまでは、環境首都SAPPORO（仮）を世界に誇れるという言い方で進めていたところですが、一步進めた形にして、国内外に貢献していくという観点を入れさせていただきました。道内の市町村との連携によって、北海道における環境保全へ積極的に貢献していく、また、北海道のみならず、国内外へ向けた環境技術の提供、情報発信による持続可能な都市づくりへの貢献ということを書かせていただいております。

また、自然分野としましては、自然環境や生物多様性が保全された環境の実現ということで、豊かな緑や生き物が保全されている環境の実現、また、水、空気、土が良好で、安心して健康な生活を送れる環境の実現としております。

最後に、それを支える都市として、持続可能な都市の実現としまして、エネルギーネットワークが構築され、豊かな緑が感じられるなど、低炭素化が進み、世界が注目する都心

形成の実現や、地下鉄駅周辺などの地域交流拠点を中心とした交通機能の強化によって移動しやすい都市の実現、また、市街地形成につきましても、都市サービスの充実している地域を中心にして、高密度で質の高い市街地の形成や交通利便性、生活利便性が確保された良質な居住環境の実現、そして、緑豊かな都市としております。そして、ご意見もいただきました、気候変動などによる気象の変化など、災害等に備えた安心・安全な都市づくりの実現として、市民の生活を支えていく都市というものがあって、それを踏まえて、どのような市民であつたらいいのかということを目指す姿として記載させていただいたところ です。

先ほどのライフスタイルのところでは、精神的なところも確かに大きいかと思っておりますが、全体としてライフスタイルをどのようにつくっていくかということについては、今後、ご議論いただいたり、考えていったりしなければいけないと思っておりますけれども、一旦、目指す姿としてはこのような形で書かせていただいたところです。

これについてご議論をいただければと思います。よろしくお願ひいたします。

○松田会長 どうもありがとうございました。

ただいまの説明では、これまで全体会議や部会で議論してきた内容を踏まえて、環境首都 S A P P O R O（仮）という私たちの望む 2 0 5 0 年の姿のイメージについての事務局案を示していただきました。

ただ、現実には、先ほどもこれ以上の議論がいろいろ出てまいりましたので、これを見て、皆さんのご意見をお伺いしたいと思ひます。

○田部委員 田部です。

先ほどから皆さんのご意見を聞いて、理念と目指す姿のところはどうもしっくりきません。私は詳しいわけではありませんが、むしろ、ここでこういったものを形成することによって世界に貢献していくとか、会社の企業理念などでも、何とかの活動を通じて人類に貢献するとなつていたりします。持続可能のところ安心・安全、健康などを含んでいないとわかりづらいなどいろいろあると思ひますが、そもそも、まちの形成が理念とは違ふのではないかという感想を持ちました。

○松田会長 ありがとうございます。

こういった考えもあるということで、考慮していただきたいと思ひます。

そのほかにいかがでしょうか。

○西川委員 生物多様性の立場から意見を言わせていただきます。

一番言いたかったことは、冒頭、石井委員からしっかり言つていただいて、それに尽きると言へば尽きるのですが、再度、意見を言わせていただきます。

将来像のところを見ても、生物多様性や自然環境が札幌の都市を成り立たせる土台であるというところが必要だと強く思ひました。

一方で、いろいろな課題の中に生物多様性というものが出てきていますが、具体的なことが全く書かれていなくて、生物多様性を大事にしましょう、自然環境を保全しましょう



と言われても、多分、誰もイメージができないのではないかと思います。

言葉自体が非常に曖昧で、わかりづらく、浸透しづらい言葉でもありますので、生物多様性を保全するということについて、具体的なイメージが持てるような形で示してもらえればと思います。

○松田会長 どうもありがとうございました。これも十分考慮していただきたいと思います。

○中野委員 2月の第1回会議の議論の中で何人かの方から意見が出ていたと思いますが、雪に対する取組についてです。それに関して、ここまでの記載の中ではちょっと弱い状況になっているわけです。

札幌市では、ガラスのピラミッドや円山動物園の中で、雪冷房の利用の経緯が過去にあるわけですが、将来の姿のイメージの中にも雪の活用を入れるべきだと思います。冬の厄介者を夏のすぐれものに変えていくという発想です。循環型社会の形成なのか、環境共生型社会の形成のどこかのテーマの中に入れておく必要があるのではないだろうかと思います。

ある専門家の講演を聞くと、中央区に降った雪を集めたら、札幌市内の冷房電力需要は全て賄えますということも言われている状況なので、冬の間、せつかくこれだけたくさんの雪が降る200万人都市は世界を見渡しても札幌ぐらいしかないわけですから、何らかの先導的なプロジェクトの中に位置づけてやっていくことも、世界に向けて発信する上では大事な技術なのではないかと思います。

たしか、排雪した雪を大通公園でため込んでいますよね。あれを冷房に使っているのかどうなのかはよくわかりませんが、ああいったものから冷房能力を引き出して地下街や近隣ビルで使うといったアイデアをどこかに織り込んでおく必要があるのではないかと思います。

○松田会長 どうもありがとうございました。

○永田委員 雪はとても重要なキーワードだと私は感じています。

今は、エネルギーとしての利用の話だったと思いますが、雪を介したコミュニティの形成なども重要だと思います。

例えば、今、高齢者の問題も出ておりますが、札幌市の中で、排雪溝が設置されている地域があります。そういうところがありましたら、高齢者の方々が自分でふたを持ち上げることはとても難しいです。しかし、若い世代がそれを持ち上げてくれて、そこにたくさんの人たちが雪を捨てにきて、その地域が少しずつ広がっていきます。そのところで、初めて顔を合わせる人たちは、どの辺に住んでいるのという感じでネットワークがつくられているところもあります。

ですので、私は、雪を一つどんと取り上げてもいいのではないかと感じがしています。コンパクトなまちづくりというところもあります。そういうところも、エリアを決めて公的なサービスとして行う除排雪もあれば、地域で各世代の人たちが協力し合うことに

よって雪を克服していくということもあります。

高齢者は、除雪ができないために共同住宅に移り住んでいくということがありますので、そのところがうまく解決されれば、そういったことにも結びついていくと思います。ですから、雪の利用の仕方といいますか、それをキーワードとして、どのようにまちづくりに発展していけるのかという意味では、雪を中心にして何かの体系ができるのではないかという感じがしております。

○松田会長 どうもありがとうございました。

道内でも、沼田や美唄など雪を使っているところはあちこちにありますが、新潟県などでは、「楽雪」、楽しむという雪の使い方をしてありますが、それもぜひ入れていただければと思います。

○大沼委員 質問ですが、資料4の2枚目の右下、持続可能な都市の実現というところの二つ目のポツと四つ目のポツに交通機能の強化、交通利便性とありますが、この中には自動車交通も含まれるのでしょうか。

私の印象では、少なくともまちづくり部会では、脱自動車はかなりあったと思いますし、先週の市民ワークショップの中でも、ガソリンをもっと値上げするとか、中心部の自動車の乗り入れを規制すべきだといった脱自動車型の提案が市民の中からもかなり出てきたかと思えます。ここに自動車交通を含むという誤解をされるようなニュアンスが入っているとしたら、それは訂正をお願いしたいと思います。

○事務局（佐竹調査担当係長） 都市についての記載ですが、こちらは、別途、札幌市のまちづくりの計画の一つである都市マスタープランから記載を持ってきました。

都市マスタープランは、今年3月に策定して、2035年までの都市づくりの計画を立てておきまして、その中で、例えば、地域のつくり方や交通についての考え方、方向性などハード的なところについて記載しております。その中に、公共交通、自動車を含めて、このような書き方で今後進めていくという計画を立てておきまして、それをそのまま持ってきているということがございます。

確かに自動車も入ってきていますが、現状の課題といたしましては、市内中心部でかなりの混雑などがありますので、そういったところを解消していくとか、公共交通機関の利便性を向上していくという記載をしておきまして、それに向けて今後取り組んでいくことにしておりますので、2050年にはそういったものが進んだ姿ということで記載しております。

○大沼委員 これは、あくまでも将来の望む姿です。まずは公共交通が主であって、自動車は従であります。本当になくせるかどうかは別のものとして、未来の姿としてはその主従関係を明示的に書くべきだと思いますので、提案いたします。

○松田会長 確かに、2050年の話ですので、その辺も十分考慮して書いていただきたいと思います。

○石井委員 今までになかった視点で二つ申し上げます。

一つは、札幌市内に存在する事業者にも環境首都SAPPORO（仮）に貢献いただきたいと思います。これを見ると、産業という視点は書いていますが、自分たちのビジネスのことを書いているだけで、札幌市の環境に対して、事業者として市民と同様に貢献していく、会社、事業者としての責任を果たしていくのだという視点が欠けている気がします。そうすると、例えば、通勤で札幌以外の札幌市内に勤めていらっしゃる方々も準市民であるというような形に広がってくる気がします。

もう一つは、ネットワークなのか産業なのか、どこにどう入るかはわかりませんが、環境の仕事といいますと、これまでは、どちらかというところ、行政が規制的なことをやりつつ、行政が廃棄物処理をし、行政が水処理、下水処理をやるなど、行政が果たす役割が非常にありました。それから、事業者には、どうしても、我慢してください、市民に協力をお願いしますという環境政策が主だったと思います。これからは、市民にも協力をしてもらうのは当然ですが、行政だけではなくて、民間にできることは民間でやってもらうということです。

例えば、循環型ビジネスの創出とありますが、創出するだけではなくて、行政と循環型に貢献するような民間の企業がお互いにこうやっていき、ワイン・ウインの関係や高ベネフィットの関係などを実現していくなど、事業者が環境にも貢献していくのだ、ビジネスとして札幌に貢献していくようになればと思います。昔からパートナーシップと言われていますが、パートナーシップを超えて、みんな一緒になってお互いが助け合いながら札幌をつくっていくという感じのコンセプトが入ってくると、もうちょっと活性化する気がします。

何でも行政がやる時代はもうそろそろという感覚を持っています。

○松田会長 ありがとうございます。

この辺も十分考慮して加えていただければと思います。

○石塚委員 今、石井先生のおっしゃっていたことは、私も部会でお話しさせていただいたことで、ぜひ民活が進んでいけばと思います。

将来像については、確かに、札幌市という200万人都市が目指す将来像というのが一つあります。しかし、私たち一人ひとりが市民というところでは、ある意味、まちづくりにも関係してくる環境問題だと思っています。

私は、仕事柄、10区全てで講座などをさせていただきますが、札幌とはこんなに広いのかと思います。区だけではなくて、町内会に入っていくと、人も違えば住環境も違い、同じ札幌市だろうかと思うようなところもたくさんあって、札幌市は本当に広くて大きいと思います。

全国的に見ると200万人都市はたくさんありますが、面積から言うと、とにかく札幌は広過ぎます。これの一つでくくっていいのだろうかといつも思っています。区をまたぐと、別の街（まち）ではないかというぐらい違うのに、何かをするときには札幌市とくくってしまうのは果たして本当にいいのかなと思うことがあります。

それを踏まえると、2050年に目指していく姿は、ある意味、もうちょっと市民レベルに落とし込んで、極端な言い方をすると、町内会レベルまで落とし込んで、市民一人ひとりが環境に関心を持つような世の中になってもらえるといいと思います。そうしないと、一人ひとりが行動できないと思います。

私たちが街路樹に花を植えようと言うと町内会なり地域活動です。一つをとって、札幌市はこういうことをやっていますとなってしまうと、200万人都市の札幌市をほんの一つや二つのパフォーマンスくらいで全部語れてしまいます。しかし、それは90%くらいやっていなくて、1割、2割のところ、札幌市はこんなことをやっています、あれもあります、これもあります、こんなこともやっています、全部に100点満点つけるくらい環境宣言ができるのです。しかし、それは200万人のほんの一部で、人口を比率で割ると、それこそ10万人都市のまちでもやっているようなことです。人口にすると、我々は実感が全然ありません。

環境白書などからすると、いつも札幌市のきれいなところばかりがパフォーマンス的に表に出て、実態的に市民一人ひとりに根差した環境政策がとられているかということを見ると、そんなことはないと思います。極端な言い方をすると、各区に環境課みたいなものがあるといいと思います。

区でも、連合町内会のレベルでもまだ広いです。町内会でも広いくらいの札幌をどうみんな運営していくかということ踏まえたまちづくりの視点で将来像も検討いただければと思います。

○松田会長 どうもありがとうございました。

それとは逆に、私なんかは、廃棄物の話だと、札幌だけではなくて、周りの市町村も一緒に入れた将来像をぜひ加えてほしいと思います。廃棄物のことだと、札幌市だけではなくて周りも非常に困っているのですし、一緒に処理したほうがウイン・ウインの関係になり得るのです。人口減少が明らかで廃棄物も減少するのですから、そういう考え方が入ってもいいのではないかと思います。

そのほかにいかがでしょうか。

○半澤（久）副会長 半澤（久）でございます。

まず、将来像に関してはなかなかよく書けていると思いますが、2050年のことを考えているということであれば、むしろあまり定量的にしないほうがいいのではないかと思います。温室効果ガスの削減だけ括弧で数字が入っていますが、ほかの項目に比べて、量的なものをあらわしているの、目指す姿という意味では、なくていいかと思います。

それから、先ほど中野委員から雪のことで意見がありましたが、札幌では行政レベルでも民間レベルでも十数年前から雪の活用をしていることは事実です。それも、今の石塚委員の話のように、一部でやっているということではあるかもしれませんが、いろいろ掘り出していただくと過去の事例も出てくると思います。

戻って、資料3-1の左側の1-2の札幌市の現状とこれまでの取組のところで私が個

人的に気になるのは、一番下にある健康で安心な生活環境の確保の「安心」という言葉にひっかかります。「安全」というのは、ある意味で、定量的にもいろいろな意味で評価が可能なものだと思いますが、「安心」とは何だろうということです。

もちろん、辞書的な意味で限定すれば、ある程度は限定できると思います。また、あちこちで「安全・安心」がセットで使われていると思いますが、こういうものを書くときには、どちらかという定義があるものを使ったほうがいいと思います。定義というか、枠がつけられるものにしたほうがいいと思うので、「安全」という言葉のほうがふさわしいと思います。

それから、村尾委員、石井委員、岸委員が異口同音におっしゃっていましたが、札幌市が取り組んできた歴史的なものを踏まえると、健康で安全な生活環境の確保がまずは基盤だと思います。

ですから、恐らく、書き方としては、札幌市の都市構造の項目の次ぐらいに来るべき項目だと思います。今までこうやって取り組んできたし、これからもこう取り組んでいくのですよという姿勢を示すのが必要だと思います。今は全部横並びのように書かれていますが、多少階層的なものになっているのではないかと思います。むしろ、一番下に書かれているものが先に来てもいいのではないかと思います。その辺は検討いただければと思います。それらが気になったところがございますので、ご検討いただければと思います。

以上、意見でございます。

○石井委員 今、安心という言葉がありました。僕は二つの言葉に置きかえられると思っています。

一つは、備えがある、セキュリティがされているということです。何かあったときでも代替のものが確保できてとか、飲み水がちゃんと確保されているとか、安心というのはセキュリティが一つあると思います。

もう一つは、行政にかかわる施策をつくる方々と市民との信頼関係です。信頼関係のもとでこういうことをやっていきたいと思いますというのが安心だという気がします。僕も調べてみますが、事務局でも調べていただければと思います。

それから、理念と目指す姿は難しいです。理念が目指す姿とあまりにも言葉がかぶっているのでは、皆さんは違和感を持つのかなという気がしました。

僕は、今、ずっと考えていましたが、理念としては、雪国で、こういったものを克服しながら、環境に対して常に改善の方向にチャレンジし続ける個人になるとか、もう少し人を強調するような形でもいいという気はしましたけども、難しいなと思って聞いていました。

○松田会長 どうもありがとうございました。

○遊佐委員 大変いいお話を聞かせてもらって、ありがとうございます。

一つ、雪対策についてです。

環境省にも委託事業や補助事業とかありますので、産業界、有識者などの外部、それと

札幌市、そして市民の参加で、雪対策や雪利用に対するプロジェクトをつくってもらって、環境省に提案してください。私の事務所はお金がありませんが、環境省の本省にはありますので、そのような実践的なことを進めながら環境基本計画をつくっていただければ、市民への説明に対しても、市民の目線が変わると思います。

もう一つは、皆さんが非常に一生懸命やってこられた環境広場さっぽろが、来年で20周年記念を迎えます。そのときにどういうものを見せるかという苦労があると思います。昨日、環境省のCOOL CHOICEの展開をやっている国民生活室の室長と室長補佐が、私のところに来ました。今後の進め方などを話しました。2,000万円をくれれば、いいのができますと言いました。ただ、今回は、1,000万円を要求して、500万円でした。だから、20周年にふさわしい札幌の姿を見せることに、協力してほしいと言ったところです。ぜひ頑張りたいと思います。

つまり、環境基本計画の理念というものは、そういう場でいろいろと展開してもらえればすごく有意義だと思っております。環境省にも、札幌市に協力したいと思っておりますので、私を利用してみてください。できる限りのことはしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○松田会長 どうもありがとうございました。

大分時間が押してきていますので、まだご意見あるかと思いますが、議事(4)に移りたいと思います。

第2次札幌環境基本計画における施策の柱について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局(佐竹調査担当係長) たくさんのご意見をいただき、ありがとうございます。

将来像につきましては、修正して、次回の部会で示して、それを踏まえて個別の対策ということにしたいと思っておりますので、そちらでもご意見をいただければと思います。

それでは、議題(4)の環境基本計画における施策の柱について、資料5でご説明させていただきます。

先ほど将来像については、ご意見をいただき、修正させていただきますが、それを実現するための施策の柱ということで、将来像を見据えて、2030年度までに取り組むべき施策の柱について位置づけていきたいと思っております、ここの柱立てについてご議論をいただければと思います。

計画期間については、先ほどもご説明させていただきましたが、2018年度、平成30年度から2030年度までということにさせていただきます、施策の柱として、まず一つは、低炭素社会の実現、徹底した省エネルギーの推進、再生可能エネルギー導入や新たなエネルギーとして期待される水素エネルギーの活用などによって市内から排出されるCO<sub>2</sub>を大幅に削減し、低炭素でスマートなまちを目指すとしております。

これまで部会でご議論いただいたさまざまな分野がございました。その分野を柱立てに位置づけていきますと、①の低炭素社会の実現については、地球温暖化、適応策や雪、そ

れからモビリティを含めております。また、エネルギー、水素社会についてもこの分野に入っていくかと思えます。

もう一つは、②の循環型社会の実現です。廃棄物の減量やリサイクルのさらなる推進によって排出される廃棄物を大幅に削減するとともに、生産から供給、消費、廃棄に至る製品やサービスのサプライチェーンの中で、限りある資源を再利用しながら、資源が循環するまちを目指しております。こちらの施策分野は、廃棄物としております。

③として、環境共生社会の実現としております。こちらは、自然環境の保全や生物多様性の保全によって、自然豊かで多様な生き物と共生できる都市環境を実現し、次世代に継承するとともに、快適な大気環境、良質な土壌、水循環を維持することで、健康で安心した生活のできるまちを目指しております。この分野としては、自然環境ということ、生物多様性、大気、水、土壌を含めた自然環境をここに位置づけていけるかと思えます。

④として、環境施策の横断的、総合的な取組の推進としております。

環境教育、環境施策を通じた地域コミュニティの活性化、経済の活性化、道内他都市や国内外の都市との連携、交流、協力を進めるとともに、企業やNGO、NPOなどの団体と協働して取組を進めることで分野横断的に環境政策の展開を図るとしてしております。こちらは、部会で言うとまちづくり部会でご議論いただいた内容になりますが、環境教育や人口減少、少子高齢化、地域コミュニティ、道内連携、経済、社会について記載できればと考えております。

こういった4本の柱を通じて、環境首都SAPPORO（仮）を実現する札幌市民のライフスタイル構築としております。4本の柱を通じて札幌市における環境保全対策を進めるとともに、札幌市民が環境首都SAPPORO（仮）をつくり上げ、そこに住むことに誇りを覚え、その魅力を発信していくような新たなスタイルを構築していくとしております。

先ほどのご意見で精神論的とかWHOが目指すような置いてけぼりにしないという考え方もあるかと思えますので、いただいたご意見を踏まえて修正させていただきますが、それに加えて、ここに関してご意見をいただければと思えます。

○松田会長 どうもありがとうございます。

ただいま、計画の施策の柱として4つの柱が立てられておりますが、これまでの議論の中ではこれらの柱のいずれかに入っているようになっていると思えます。しかし、こちらに変えたほうがいいのではないかという意見があろうかと思えます。また、柱をこうすべきではないかなどの意見があればお願いします。

○大沼委員 ①から④まで並列していますが、①から③までが実現すべきミッションになっていて、④が推進するためのプラットフォームみたいなものになっていると思うので、図で書くなり工夫をしていただければと思えます。

先ほど、理念や違和感の話が出ていましたが、見せ方の工夫だと思えますので、次回以降は工夫をいただければと思えます。

○松田会長 そのようにお願いいたします。

そのほかに何かご意見はございませんか。

○石井委員 ずっと言おうと思っていて今になってしまいました。3番は自然共生ではありません。環境共生です。環境基本計画の中で、ここだけ環境共生と言われるとちょっと違和感がありますが、どうして環境共生になったのですか。

○事務局（佐竹調査担当係長） あまり他意はありません。何とか社会という言葉が世の中に出回っている中で、自然環境との共生となってくると、環境共生社会という言葉がキーワードとしてひっかかって、今回はそれを案として出させていただいたところです。

○石井委員 環境省は自然共生社会です。

○西川委員 私もずっと違和感を持っていましたが、多分、札幌市という大都市での環境基本計画なので、都市環境計画という意味合いが非常に強くなっていると全体を通して感じます。ある面では仕方がないのですが、自然という言葉をあえて出さなかったのだろうと私は理解していました。でも、自然共生というのはとても大事なことです。環境共生にしてしまうと、自然をどうするのかというところがかなりぼやけてしまいますので、できれば自然共生という形でもらったほうがありがたいです。ただ、いわゆる自然環境以外の環境要素や都市環境にかなりかかわってくる場所もあると思うので、そのあたりをどうしたらいいかということは検討しなければいけないと思っていました。

○岸委員 今おっしゃったことは、私も本当にそのとおりだと思います。むしろ、③の自然共生社会の実現と、それを支える環境、特に大気、水、生活環境の構築、施策分野を分けたほうがすっきりすると思います。自然共生は非常に重要だと思いますが、快適な大気環境、良質な土壌、水循環、それに加えて生活環境を構築するということです。ですから、ここを4本にして、かつ、先ほど大沼先生がおっしゃったように、推進するプラットフォームはどうあったらいいのかとすると、専門家目線でもわかりやすくいいと思います。

○松田会長 どうもありがとうございました。

○事務局（金網環境計画課長） 言葉の定義については、きちりしていないところがありましたので、今のご意見も踏まえて、どういう表現がいいのか、言葉の意味も説明できるように、十分に検討してまいりたいと思います。

○松田会長 そのほかにいかがでしょうか。

○半澤（實）委員 3番目のところで基本的なことです。生物多様性、水、そこで何で緑が抜けているのかと思いますので、環境共生社会の施策分野の中に緑を足していただけませんか。

○松田会長 その辺もご検討いただきたいと思います。

そのほかにいかがでしょうか。

○石井委員 次の部会でやればいいことだと思いますが、循環型社会の実現の中で、これだと資源が循環することが目的になってしまいます。循環型社会というのは、資源を循環することは手段です。目的は、それによって資源保全と環境保全が図られる社会です。で



すから、余計にエネルギーを使うように循環はしてはいけないし、ましてや環境を汚すような循環をしてはいけないということです。資源が循環することが目的になってしまうと困ります。2030年までの施策というのであれば、効率性などのキーワード、今よりもどんどん改善していくのだという視点で入れていただきたいと思います。

それから、廃棄物となっていますが、上には資源と書いていますので、廃棄物等です。要するに、有価で回っているものも我々は循環型社会の中で見ていかなければいけないということをお含みおきいただければと思います。

○松田会長 ありがとうございます。

そのほかにございますか。

それでは、最後になりますが、市民意見の反映方法について、事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局（佐竹調査担当係長） 最後に、市民意見の反映方法について、市民ワークショップと、今日は残念ながら欠席となっておりますが、公募委員の大崎委員にご協力をいただき、環境対策に取り組んでおります実践者、外国人にグループインタビューを行いましたので、そちらの結果をご報告させていただきたいと思います。

まず、資料6の1枚目ですが、今回、9月10日に市民ワークショップを行いました。その市民ワークショップを行う際に、ワークショップでの参考ともさせていただきため、まずは実践者へのワークショップ、外国人へのグループインタビューを行いました。

左側に実践者向けワークショップと書いておりますが、8月30日の13時半から16時半まで行いました。参加者といたしましては、21名、NPO等の市民活動団体や、企業の中でも環境系のコンサルタントの方々などに集まっていただき、意見交換を行いました。

ここでの意見交換としては、環境首都SAPPORO（仮）で目指すテーマの具体的なイメージや取組内容としております。テーマというのは、その下に書いておりますが、低炭素なまち、エネルギーを有効利用したまち、循環型のまち、自然共生したまちということで、この四つを参加者の皆様方に話し合っていたいただきました。

それぞれでグループをつくっていただき、ワークショップという形でさまざまな意見をいただいたところです。

その中では、コンパクトシティや交通体系などのまちづくり全般のテーマが共通のキーワードとして出されていまして、都市計画のタイアップが必要との意見が出されておりました。そのほか、身近な暮らしに関する意見として、住宅に関する意見やライフスタイルについてのテーマが出されていたところです。

その下に目指す姿、取組に関するアイデアをまとめておりますが、エネルギーについては、省エネが進んでいるまちということで、エネルギー効率のよい住宅やビル、無駄に暑くしたり寒くしたりしないとか、携帯でエネルギーやCO<sub>2</sub>を管理する、エネルギーが見える化されている、また、再生可能エネルギー、自然エネルギーの活用が進んでいるまち

ということで、再生可能エネルギーが普及している、地中熱を使った冷房などの意見が出ておりました。

また、交通についても、エネルギーを使わない交通システムがあるまちということで、エコな自動車の普及、ガソリンを使わないと書いてありますが、現在でも電気自動車や水素自動車などのガソリンを使わない自動車の普及が意見としてございましたし、公共交通の充実や自転車の推進をご意見としていただいております。こういったアイデアを実践者からいただいたところです。

また、右側に移りまして、外国人へのグループインタビューを行いました。こちらは、9月2日金曜日に札幌市の国際プラザに協力をいただきました。参加者としては、ドイツ、中国、韓国から札幌にお越しただいて、国際交流について活動をいただいております札幌市国際交流員にインタビューを行いました。

この中では、まず、札幌の環境のすてきなところということで、外から見た札幌市を聞いてみましたが、今後、環境首都としてPRしていくためにどうしていったらいいのかということについてもお話を聞きました。中国の方から見ると、北海道の環境はすばらしいとしか感じないということで、それ以上はどうしたものかというお話をいただきました。空気がおいしいとか、緑も多くあるというイメージでした。また、韓国の方からは、ミュンヘン・クリスマス市という12月に大通公園でやっているイベントでリサイクル食器を利用していたり、雪をエネルギーとして活用していることについても驚いたという意見がありました。

また、自然と共生し、調和した都市についてです。これはドイツの方からですが、中島公園がK i t a r aや天文台など見どころが多く、自然と人間と一緒にどのように生きていくかを示す場所であると思いますという哲学的なお話をいただきました。中国の方からは、大通公園については、季節ごとにイベントがあり、開放的で都市と調和していると感じたというご意見をいただきました。

特に、北京からいらっしゃった方ですが、中国では、公園とビルなどが区画で区切られていて、公園自体が非常に管理されていて、夜に入れなくなったりする状態になっているので、自由に出入りができて都市と協調しているのが印象的だという意見をいただきました。

そのほか、清潔なまちや市民意識の高さということで、ごみ箱がまち中にそんなに多いわけではないけれども、ポイ捨てが少ないということを感じたとか、ごみが少ないことで環境保護に関する意識が高いのではないかとご意見をいただきました。

また、海外の取組といたしましては、ドイツの住宅では、断熱がきちんとしているので、エアコンがなかったり、暖房の使用頻度も低いとか、ライフスタイルについてのご意見をいただきまして、先ほども少しお話にありましたが、ドイツは、悪い天気や悪い温度が存在するわけではなく、悪い服装が存在するという考え方がありまして、気候に対して自分があわせていくという生き方をしているそうです。ですので、例えば、冷房がきつ過ぎる

とか暖房が暑過ぎることはないという話をいただきました。

それから、レジ袋の話も出まして、ドイツでは、ビニール袋は基本的にもらえないとか、生ごみの削減についても、韓国のマンションでは、常に生ごみを捨てられるみたいですが、捨てた重さによって料金が決まるというものだそうです。ですので、札幌では燃やせるごみ袋の中に生ごみもほかのごみも一緒に入れることに非常に驚いたというご意見もいただきました。

それから、ここには書いてありませんが、韓国では、ごみ袋については札幌と同様に有料のごみ袋らしいですが、レジで買い物をして有料の袋を下さいと言うと、それがそのままごみ袋になるらしいです。要は、札幌で言うと、黄色いごみ袋の中に買ったものを入れて、そのまま渡されるということが起きているらしいです。ですので、家に帰ると、そのままごみ袋として使う取組をしているという話を伺いました。

このように、外国人の話も参考にさせていただきながら、次のページに市民ワークショップを9月10日土曜日に実施させていただきました。

参加者としては67名で、年齢、性別、居住地を考慮して無作為抽出した4,000人にお声かけいたしまして、その中から参加希望があった方に対し、抽選で85人にご参加くださいとご案内したところ、当日の欠席などもあり、合計67名に参加いただきました。

意見交換のテーマとしては、環境首都SAPPORO（仮）で目指す姿のイメージや、その姿に対して実現に向けた取組内容についてご意見をいただき、大切な取組や、今後より進めていくべきだろうと考える取組に対し、シール投票をしてもらって、重みづけをさせていただきました。

最初の2050年の環境首都のイメージについての主な意見としては、車を極力使わないライフスタイルや自転車の活用、また、自然保護、まち中に緑が多いとか雪の利用、住宅については高気密・高断熱住宅が進んでいるとか、再生可能エネルギーの導入といったことをご意見としていただきました。

こちら、先ほどの実践者のワークショップと同様に、低炭素、エネルギー、資源循環、自然共生について意見交換をさせていただいて、それぞれ出た意見について、シール投票で重みづけをしていきました。その中で、よりシールが多く貼られた取組について紹介しております。

低炭素なまちについては、67人中32名がシールを貼っていただき、エコな取組をする人が得をして、取組をしない人が損をする仕組み、電気やガスなどのエネルギーに対してエコポイントや歩いて暮らす人にはインセンティブをつけるといった意見をいただきました。

また、エネルギーについては、67人中18名が公共施設と大企業の雪冷房導入を推進し、義務化するというご意見もいただきました。同様に、18名から、家庭レベルで雪を有効利用するという話もご意見として出ておりました。

また、3番目の資源の無駄使いについては、67人中21名が、生ごみは分けて分別し

て、生ごみを簡単に捨てやすい仕組みをつくる、毎日捨てられるとか回収拠点があるというご意見が出ておりました。

また、4番目の緑が豊かで自然と共生したまちについては、67名中22名が、将来を見据えた森やまち中の緑の維持管理計画を策定し、進めていくとか、防災の視点を含むということにシールがたくさん貼られていました。

今後の実施予定としては、子どもの意見を反映するというので、札幌市で実施しております子ども議会というものがございまして、小学5年生から高校生までの子どもたちに集まっていたいて、今回、テーマの一つに環境保全を採択してもらいましたので、札幌市民全員が環境保全行動を行う方法について年末に提言を行うという取組を行っていたり、来年2月に冬のワークショップについて進めていきたいと思っております。このワークショップですが、インタビューにつきましては、この環境審議会の皆様方、大沼委員にも多大なるご協力をいただきましたし、ワークショップにご参加いただきました。ありがとうございます。

事務局からは以上になります。

○松田会長 どうもありがとうございます。

本計画の検討に当たっては、市民自治の観点から、ワークショップやパブリックコメントなどによって市民の意見を拾い上げて反映させることを考えております。

ただいま、ワークショップや外国人のインタビューなどの説明がございましたが、今後、市民意見あるいは外国人の意見を本審議会で検討材料としながら計画に反映していきたいと思っておりますが、皆さんから何かご意見があればいただければと思います。

○大沼委員 実践者ワークショップと外国人インタビューは、大崎委員を初め、お骨折りいただき、また、市民ワークショップはKITABAさんに非常にご尽力いただいて、全体としてはよかったという感想を持っていますので、これを計画の中に織り込んでいただきたいと思っております。

今日は大崎委員が欠席していますが、お伝えくださいと言われているのは、このワークショップは非常によかったので、年1回ぐらい継続できる仕組みをつくるべきではないかというのが大崎委員の希望でした。

私から補わせていただきますと、ワークショップ自体は非常によかったと思いますが、アンケートの回答を見ていると、実は10%もなく、9.6%しかありません。4,000人いて400人も回答していないというのはどういうことなのか。

それから、このワークショップに参加してもいいと言った方が120名ぐらいいきません。4,000人に対して3%しかいません。明らかに、ごくわずかの方しか巻き込むことができていません。先ほど来、石塚委員などいろいろな方が言葉を変えておっしゃっていますが、札幌市民は多様だと思えますし、区ごとにも連合町内会で見ても本当に多様だと思うので、市として酌み取る場をもっと設けてほしいと思えます。ワークショップを一回だけぽんとやって終わりではなくて、多様な市民もいるのだということ

理解していくという方向と、市民に対して計画の内容を見せて知っていただきながら巻き込んでいくという両方のプロセスとして、こういった機会はまだまだ足りないと思うので、増やしていただきたいというのが私の補足と大崎委員の意見です。

○松田会長 どうもありがとうございました。

そのほかにいかがでしょうか。

○岸委員 大変興味深いご報告をいただき、ありがとうございます。

私も大沼委員と比較的近い意見ですが、この会議に出させていただいて、札幌市の緑の被覆率はむしろ低いのではないかと思います。仙台などと比べても10%ぐらい低いです。ところが、豊かな緑などの自然があると答えていらっしゃる方が79.4%いるということは、どこの地域に住んでいらっしゃるのかと思います。中央区や南区は多いかもしれませんが、東区や北区ではとてもこんなパーセンテージではありません。

私も調査研究を長年やっておりますが、答えられた方がどういう方かということです。つまり、札幌市民全体ではなくて、かなりバイアスであると思います。そういう意味では、これをうのみにするのではなくて、もっと緑をふやさなければいけないわけですし、年齢的にもどういう方たちだったのかとか、弱い人も含めて誰一人見逃さないといえますか、被害を受けないようにということからしますと、安全の問題から見ても、決してこれで安心してはいけないというか、環境首都SAPPORO（仮）と言うのであれば、もっと目標を高く持つべきだと思います。

先ほど松田会長がおっしゃっていましたが、廃棄物では多くの市町村の連携が大事だと思います。ただ、緑だけをとりましても、それぞれの区、それぞれの町内会などで実際にみんながどう考えているのかと思います。むしろ、東京の都心のほうがよっぽど緑が多いと思います。東京から来た方の印象として、札幌は思ったほど緑が多くないという方がたくさんいると思います。

アンケートというのは、数字をきちんと見ないと、それで安心してしまっただけな数字もあるのだということが重要ですし、もっと細かい分析が必要ですし、区ごとにもやっていかなければいけないということを申し上げたいと思います。

それから、韓国やドイツや中国の例もありましたが、あれもお1人の意見ですから、もっと比較しないとわからないと思います。私は、ソウルに行きますと、東京よりソウルのほうが緑が多いと思います。市民の声を聞くことはすごく大事ですが、答えられている人の数や層もありますし、札幌市でも区ごとにより違うということがあります。全体で緑が多くて、全体で気持ちよく暮らせるということが人々にとって非常に重要ですので、その点をぜひご注意いただきたいと思います。

○松田会長 どうもありがとうございました。

その点も十分に考慮して加えていただきたいと思います。

そのほかにいかがですか。

（「なし」と発言する者あり）

○松田会長 それでは、本日の議論を踏まえて、今後の市民の意見を反映させる方法をよく考えていただきたいと思います。

以上で本日の議事の全体が終わりましたが、何かご意見などはございませんか。

○田部委員 理念と目指す姿のところは土台だと思いますので、ここに力を入れてやっていただきたいと思います。今まで何度もご指摘が出ていましたけれども、改めて申し上げたいと思います。

何度も読み返すと、札幌ではなくてもいいのではないかという気がしてきて、市民が読んで、市民目線のところも入れて、我々が目指したいという表現に変えられないものかと思います。そういうところで、雪というキーワードが入ってもいいと感じましたので、よろしく願いいたします。

○松田会長 どうもありがとうございました。

そのほかにいかがですか。

(「なし」と発言する者あり)

### 3. その他

○松田会長 その他として何かございませんか。

○事務局(金網環境計画課長) 本日はありがとうございました。たくさんのご意見をいただきましたので、今後、事務局で引き続き、骨子案、理念、目指す姿についての検討を行ってまいります。

今後のスケジュールですが、冒頭にもお話がありましたとおり、来月、10月18日を軸として部会を開催させていただければと思います。その部会の中では、施策の内容等について、分野ごとにご議論いただければと考えております。

委員の皆様におかれましては、ご多用のところを大変恐縮ですが、今後、改めて日程についてご都合を確認させていただきたいと思いますので、何とぞご協力、ご出席を賜りますようお願いいたします。

今年度は残り半分となりましたが、今年度中に中間答申、計画素案の検討まで進めていただければと考えておりますので、引き続きご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

事務局からは以上でございます。

○松田会長 どうもありがとうございました。

### 4. 閉 会

○松田会長 それでは、以上をもちまして、第10次札幌市環境審議会第3回会議を終了いたします。

どうもありがとうございました。

以 上